

わがまち 阿賀小学校



阿賀小学校の紹介

阿賀小学校は、明治10年10月18日、阿賀中央学校の名前ではじまり、何度か校名・場所が変わり、今は、豊栄新開の中にあります。昭和16年には2500人を超え、昭和18年には、2583人の子どもが通っていました。今は、618人の子どもが勉強しています。

校章の由来
阿賀港にちなんで、船のいかりをチェーンでむすんで形を決め、図案化したと言われています。



北



北を見上げると、737メートルの灰が峰がどっしりとそびえ立ち、山すそから休山と大空山の谷間のほぼ真ん中に道路があり、道路の東西に、家々が山に向けてのびています。

西には、国立公園としての501メートルの休山（古くは白峰山または石鎚山）があり、海に向け家が立ち並んでいます。

西



南には、阿賀湾が見え、晴れた日には、遠く四国の山の峰が見えます。

また、阿賀と愛媛県の堀江をむすぶフェリーの港があります。港の周りには、漁港や魚市場そして、かき養殖、かき打ち工場もあります。



南



東

東には黒瀬川（広西大川）があり、大空山のふもとから阿賀湾に向けて、岩風呂新開、小倉新開、豊栄新開と、平地が開けています。紙をつくる工場の高いえんとつも見えます。



宮尾彦五郎と土地の開発

彦五郎は、阿賀の生まれで、江戸時代(1800年代頃)阿賀の小倉新開や豊栄新開、野呂山の勤農坂の開発や風早の塩浜新開(観音新開)などの土地の開発をしました。また、長崎の出島に出向き商売をしたり、阿賀から風早・三津(今の安芸津町)までの14ヶ村の庄屋をするなど地域の人々のためにつくした人です。初めて日本地図を作った伊能忠敬とも交流があったと言われています。

阿賀小学校南隣にある豊栄公園に立っている豊栄新開の「完成記念碑」



大空山公園の宮尾彦五郎の石碑



阿賀町にある呉市の文化財